

## 「広島平和の旅」の実施にあたって

西東京市は、合併と時を同じくして、平成 13 年 1 月 21 日に「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年 1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行うなど積極的に平和事業に取り組んでいます。

被爆都市へ市民を派遣する事業につきましては、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度から実施しています。

平成 15 年度以降は、戦争体験者が高齢化するなかで、戦争の悲惨さを風化させることなく、平和への思いを若い世代へ継承していくことが必要であるとの観点から、青少年を派遣対象者としていましたが、平成 21 年度以降は、派遣対象者の範囲を広げて、小学生の親子なども参加出来るようになりました。

今年度につきましては、小学生を含め計 4 名の市民の方々が参加しました。参加した市民の方々は、広島を訪れ、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて理解を深めてきました。

西東京市

## 平和宣言

被爆 69 年の夏。灼けつく日差しは「あの日」に記憶の時間を引き戻します。1945 年 8 月 6 日。一発の原爆により焦土と化した広島では、幼子からお年寄りまで一日で何万という罪なき市民の命が絶たれ、その年のうちに 14 万人が亡くなりました。尊い犠牲を忘れず、惨禍を繰り返さないために被爆者の声を聞いてください。

建物疎開作業で被爆し亡くなった少年少女は約 6,000 人。当時 12 歳の中学生は、「今も戦争、原爆の傷跡は私の心と体に残っています。同級生のほとんどが即死。生きてくても生きられなかった同級生を思い、自分だけが生き残った申し訳なさと張り裂けそうになります。」と語ります。辛うじて生き延びた被爆者も、今なお深刻な心身の傷に苦しんでいます。

「水を下さい。」瀕死の声が脳裏から消えないという当時 15 歳の中学生。建物疎開作業で被爆し、顔は焼けただけ、大きく腫れ上がり、眉毛や睫毛は焼け、制服は熱線でぼろぼろとなった下級生の懇願に、「重傷者に水をやると死ぬぞ。」と止められ、「耳をふさぐ思いで水を飲ませなかったのです。死ぬと分かっていたら存分に飲ませてあげられたのに。」と悔やみ続けています。

あまりにも凄絶な体験ゆえに過去を多く語らなかった人々が、年老いた今、少しずつ話し始めています。「本当の戦争の残酷な姿を知ってほしい。」と訴える原爆孤児は、廃墟の街で、橋の下、ビルの焼け跡の隅、防空壕などで着の身着のまま暮らし、食べるために盗みと喧嘩を繰り返し、教育も受けられずヤクザな人々のもとで辛うじて食いつなぐ日々を過ごした子どもたちの暮らしを語ります。

また、被爆直後、生死の境をさまよい、その後も放射線による健康不安で苦悩した当時 6 歳の国民学校 1 年生は「若い人に将来二度と同じ体験をしてほしくない。」との思いから訴えます。海外の戦争犠牲者との交流を通じて感じた「若い人たちが世界に友人を作ること」「戦争文化ではなく、平和文化を作っていく努力を怠らないこと」の大切さを。

子どもたちから温かい家族の愛情や未来の夢を奪い、人生を大きく歪めた「絶対悪」をこの世からなくすためには、脅し脅され、殺し殺され、憎しみの連鎖を生み出す武力ではなく、国籍や人種、宗教などの違いを超え、人と人との繋がりを大切に、未来志向の対話ができる世界を築かなければなりません。

ヒロシマは、世界中の誰もがこのような被爆者の思いを受け止めて、核兵器廃

絶と世界平和実現への道を共に歩むことを願っています。

人類の未来を決めるのは皆さん一人一人です。「あの日」の凄惨を極めた地獄や被爆者の人生を、もしも自分や家族の身に起きたらと、皆さん自身のこととして考えてみてください。ヒロシマ・ナガサキの悲劇を三度繰り返さないために、そして、核兵器もない、戦争もない平和な世界を築くために被爆者と共に伝え、考え、行動しましょう。

私たちが力を尽くします。加盟都市が6,200を超えた平和首長会議では世界各地に設けるリーダー都市を中心に国連やNGOなどと連携し、被爆の実相とヒロシマの願いを世界に広げます。そして、現在の核兵器の非人道性に焦点を当て非合法化を求める動きを着実に進め、2020年までの核兵器廃絶を目指し核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際世論を拡大します。

今年4月、NPT（軍縮・不拡散イニシアティブ）広島外相会合は「広島宣言」で世界の為政者に広島・長崎訪問を呼び掛けました。その声に応え、オバマ大統領をはじめ核保有国の為政者の皆さんは、早期に被爆地を訪れ、自ら被爆の実相を確かめてください。そうすれば、必ず、核兵器は決して存在してはならない「絶対悪」とであると確信できます。その「絶対悪」による非人道的な脅しで国を守ることを止め、信頼と対話による新たな安全保障の仕組みづくりに全力で取り組んでください。

唯一の被爆国である日本政府は、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している今こそ、日本国憲法の崇高な平和主義のもとで69年間戦争をしなかった事実を重く受け止める必要があります。そして、今後も名実ともに平和国家の道を歩み続け、各国政府と共に新たな安全保障体制の構築に貢献するとともに、来年のNPT再検討会議に向け、核保有国と非核保有国の橋渡し役としてNPT体制を強化する役割を果たしてください。また、被爆者をはじめ放射線の影響に苦しんでいる全ての人々に、これまで以上に寄り添い、温かい支援策を充実させるとともに、「黒い雨降地域」を拡大するよう求めます。

今日ここに、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

平成26年（2014年）8月6日

広島市長 松井 一寛

## 参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

### 参加者

○渡辺文子さん ○大澤裕見さん ○大澤栄子さん ○西岡菜央さん 計4人

### 旅程

○1日目 8月5日(火)

時間	内容
8:30	東京駅より新幹線にて広島へ
12:31	広島駅到着
14:00	原爆ドーム、原爆の子の像見学
14:30	平和記念資料館見学
16:45	被爆体験者による講話

○2日目 8月6日(水)

時間	内容
8:00	平和記念式典参列、献花
10:00	本川小学校平和資料館見学
14:32	広島駅より新幹線にて東京へ
18:33	東京駅到着、解散

### 事前学習会

7月25日(金) 午前10時～

平和の旅が、より意義深いものになるように、事前学習会を行いました。

事前学習会では、それぞれの自己紹介や、旅の主旨、旅の行程、報告会などの説明を受けました。

また、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の鈴木会長と藤川さんを講師としてお招きし、市内の空襲の話をはじめ、広島と長崎に落とされた原爆のことなどについてお話をさせていただきました。

参加者の方々は、この事前学習会により、「広島平和の旅」の理解をよりいっそう深めたようでした。

### 旅先での様子

初日は、平和記念公園内の原爆ドーム、原爆の子の像、平和記念資料館を見学しました。廃墟の残骸となった原爆ドームに目を奪われ、原爆の子の像では、世界平和を祈ってささげられている多くの千羽鶴に感銘を受けました。

そして、外国の方々をはじめ、たくさんの方々が混雑している平和記念資料館では、広島に投下された原爆のことや、生々しい被爆の惨状、広島の被爆前後の歩みや核時代の状況、放射線が人体に与える影響などを様々な写真や資料などから学び、広島で起こったこと、核兵器の被害や核兵器の使用がもたらす悲惨さ、核兵器のない平和な社会の必要性について学びました。



夕方には、神辺町原爆被害者の会の藤井さん、高松さん、江木さんに、それぞれの被爆体験を話していただきました。

原爆が投下された日のようす、被爆してとても辛かったこと、たくさんの死んで行く人々や死体を見たこと、被爆したことが原因で結婚を断られたことなど、実際に体験した方々のお話を聞いて、核兵器の使用がもたらした広島悲惨さ、生き残った人たちも心と体に大きな痛手を受たこと、そして被爆によって差別や偏見に苦しめられた思いを少しずつ理解しました。



二日目は、平和記念公園で行われる平和記念式典に参列しました。この日は、式典当日としては30数年振りの雨天でしたが、会場では屋根のある席を確保することが出来ました。そして式典が始まり、原爆が投下された8時15分には、平和への祈りと被爆者への慰霊の念をこめて黙とうを行いました。昨日の平和記念資料館で学んだこと、被爆体験者の講話を振り返りながら69年前にこの地で起こったことを想像しました。

そして、式典終了後に犠牲となった方々のご冥福と平和の願いを祈って慰霊碑に献花しました。



献花を終えると、本川小学校平和資料館で、被爆した状態のまま残っている校舎や、被爆した様子のわかる写真や遺物などを見学しました。

そして、悲劇の始まりの場所である爆心地を見学しました。今では当時の面影は残っていませんが、69年前の8時15分に、この場所のはるか上空で爆発した原爆をイメージしました。

今回の広島平和の旅に参加したことによって、参加者の方々は核兵器の恐ろしさ、平和の大切さ、命の尊さについて再認識したようでした。

## 被爆体験者による講話

講師 藤井清士さん、高松勝さん、江木スミヨさん

日時 平成26年8月5日(火) 午後4時45分～

今回の講師、藤井さんは15歳、高松さんは18歳、江木さんは19歳の時に被爆しました。それぞれが、その時に体験した事をお話していただきました。

被爆した多くの人達が水を求めて川に飛び込んで死んで行き、その死体が海の満ち引きにより、行ったり来たりしていたこと。

被爆による火傷で皮が剥けて垂れ下がっている幽霊のように歩いている人に小さな声で「助けてください」と言われたが何も出来なかったこと。

死体を素手で運んだ時の感触や死体の匂い。そして、手に残った死体の匂いが強烈でご飯が食べられなくて、手を使わずに犬食いしたこと。

など、69年前の出来事であるにもかかわらず、様々な出来事が鮮明な記憶として残っているそうです。

また、「被爆者は早死にする」、「子どもが出来ても流産する」等の風評被害もあったそうです。

そして、「人の死が当たり前過ぎて、恐ろしいとか辛いとか思わなくなっていた。」

「あの頃は地獄だった。うれしいものを見ることは無かった。今の人達にはあんな事は2度と味あわせたくない。」

「どんなことがあっても日本を戦争が出来る国にしては行けない。」

「今回の話を聞いて、みんなにはがんばって欲しい。」

との言葉には胸が詰まる思いでした。

実際に被爆された方々の現実感の溢れるお話に、参加者の一人一人が原爆や戦争の悲惨さ、平和の大切さを改めて感じたようでした。



## 主な見学先ガイド

### ●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。



### ●広島平和記念資料館

原爆の被害の実態を伝える資料を収集・展示し、広島で起こったこと、平和の尊さと核兵器の脅威を紹介しています。



### ●原爆ドーム …世界遺産

チェコの建設家ヤン・レットルの設計により、大正4年（1915）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東 160 mの上空約 580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。平成 8 年（1996）、ユネスコの世界遺産に登録されました。



### ●原爆死没者慰霊碑（公式名：広島平和都市記念碑）

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰霊碑は、原爆犠牲者の霊を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。



### ●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの霊を慰め、世界平和をよびかけるため、昭和 33 年（1958 年）に建設されました。たくさんの千羽鶴がささげられています。



### ●本川小学校平和資料館

爆心地にもっとも近い学校として、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し、被爆の「証」として保存されています。「展示室」には、被害の様子が載った写真や、被爆した遺物があります。

# 平和記念公園・ 周辺ガイドMAP



- 1 世界の子どもの平和像
- 2 鈴木三重吉文学碑
- 3 旧相生橋碑
- 4 中国四国土木出張所職員殉職碑
- 5 広島県地方木材統制(株)慰霊碑
- 6 原爆ドーム
- 7 原民喜詩碑(佐藤春夫の詩碑の記)
- 8 動員学徒慰霊塔
- 9 広島市道路元標
- 10 花時計
- 11 原爆の子の像
- 12 平和の石塚
- 13 平和の時計塔
- 14 遭難犠死者慰霊供養塔
- 15 原爆供養塔
- 16 平和の鐘
- 17 平和の石燈

- 18 韓国人原爆犠牲者慰霊碑
- 19 被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石)
- 20 平和の泉
- 21 平和乃観音像
- 22 常夜燈
- 23 義勇隊の碑
- 24 広島二中原爆慰霊碑
- 25 広島国際会議場
- 26 広島市商・造船工業学校慰霊碑
- 27 慈母の像
- 28 原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑
- 29 平和の像(若葉)湯川秀樹歌碑
- 30 友愛碑
- 31 平和の門
- 32 旧天神町南組慰霊碑
- 33 広島市立高女原爆慰霊碑
- 34 マルセル・ジュノー博士記念碑

- 35 ノーマン・カズンズ氏記念碑
- 36 朝鮮民主主義人民共和国帰国記念時計
- 37 平和記念ポスト
- 38 平和の塔
- 39 嵐の中の母子像
- 40 祈りの泉
- 41 平和記念資料館(本館)
- 42 平和記念資料館(東館)  
(資料館東館内)ローマ法王平和アピール碑
- 43 被爆したアオギリ
- 44 全損保の碑
- 45 峠三吉詩碑
- 46 被爆したハマユウ
- 47 材木町跡碑
- 48 原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑)
- 49 平和祈念像(草野心平の詩碑)
- 50 菩提樹の碑

- 51 平和の灯
- 52 祈りの像
- 53 平和の池
- 54 旧天神町北組慰霊碑
- 55 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
- 56 レストハウス(観光案内所・売店)
- 57 広島郵便局職員殉職碑
- 58 平和祈念碑
- 59 原爆犠牲建設労働者・職人之碑
- 60 「平和の祈り」句碑
- 61 原爆犠牲ヒロシマの碑
- 62 石炭関係原爆殉難者慰霊碑
- 63 広島瓦斯(株)原爆犠牲者追憶之碑
- 64 広島県農業会原爆物故者慰霊碑
- 65 毛髪碑
- 66 被爆動員学徒慰霊慈母観音像

観光のお問い合わせ： 広島市観光案内所 電話：082-247-6738 / ファクス：082-247-6917 [www.hiroshima-navi.or.jp](http://www.hiroshima-navi.or.jp)



## 感想文

皆さんがそれぞれの想いを胸に被爆地広島を訪れました。  
そして、たくさんのことを見て・聞いて・感じてきました。  
ここには、平和の旅をとおして、印象に残ったことを  
ありのままに書いてあります。  
今回旅に参加したみなさんには、  
広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

## 『「広島平和の旅」に参加して』

渡辺文子

「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」 原爆死  
没者慰霊碑にきざみ込まれていました。

痛ましい原爆ドーム。そして「原爆の子の像」のまわりには平和  
への願いを込めた沢山の折り鶴、その前でうずくまって祈る姿に涙  
が溢れてたまりませんでした。

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や  
資料が展示してあり、広島での被爆前後の歩みや核時代の状況など  
について紹介していました。

特に印象に残った事は①原子爆弾をなぜ開発したか？ ②なぜ日  
本に投下することに決めたか？ ③なぜ広島に投下したか？です。

何の罪もない人間が、ある日突然、命を奪われる。町は地獄の惨  
状になる。その後何十年も身心共に苦しまなければならない。何と愚  
かなことか！戦争はどんな理由があってもしてはいけないと痛感し  
ました。

平和記念式典では、雨の中海外の方々も多く参列している姿に世  
界平和の実現を心から願いました。高齢になった被爆者や遺族の

方々の杖をついたり車椅子の姿に、安心・安全・平和な日々を送って頂きたいと願いました。

我が家は20年前の阪神淡路大震災の被災者です。住まいは半壊、すべての物が壊れ避難所暮らしをしました。友人も亡くなり、昨日までの生活は一瞬にしてなくなりました。

その傷は大きく、今でも辛く思い出したくないことです。

平和な国土を祈らずにはられません。

今回の旅は、これから日本を背負い世界に羽ばたいていく未来っ子と共に見学し語りあうことが出来、大変充実した2日間でした。

この旅で学ばせて頂いたことを大切に、世界から戦争をなくすため自分に出来ることに挑戦していきたいと思います。

〔旅に参加する前の広島イメージ〕

- 原爆が投下された地
- 平和に対する意識が強い地

〔旅に参加した後の広島イメージ〕

- まだまだ苦しんでいる人が沢山いる
- 思いやり、忍耐強さ、生命力の強さを感じた
- やさしい町



## 『私の人生観を変えた広島の旅』

大澤裕見

私は自分に出来る事は何かと考えた時に、次世代に伝える事だと思ひ、子供と一緒に参加しました。

事前学習会では、田無の駅前に1 t 爆弾が落とされ、多くの方が亡くなったことや、平和のシンボルとして駅前に「平和のリング」が設置されている事等を初めて知り、びっくりしました。

広島平和記念資料館では、どれだけ原爆が恐ろしいもので、どれだけ人が傷つき無残に死んでいったか、今も後遺症に悩まされている事、世界でもいまだに核兵器が数多く作られ続けている…という事を、改めて学びました。

二十歳前に被爆した方々による講話では、「本川小学校の前に黒いかたまりが並んでいた。それがすべて死体で、死体を持って投げて片付けるときは、なんともいやな感触だった。」

「戦争というのは、人の殺し合いである。」

「戦争ができる国にはいけない。」

「今の若い人に二度と味あわせたくない。」

「思い出したくないが、この時期になると思い出す。」

等の言葉が印象的でした。

翌日、平和記念式典に参列し、献花をしました。『平和への誓い』で六年生が述べた「小さな事から始めるために、友達を大切にし、優しく接しています。」という言葉が今も心に残っています。地球上すべての人がこういう気持ちを持っていたら、戦争は起こらないのに…とつくづく思いました。

この平和の旅で、今まで自分がどれだけ無知で、のほほんと生きてきたかを思い知らされ、つらい事があっても、これ位の事、被爆した人の苦しみに比べたらどうってことない、多少の事はガマンしよう等、人生観が変わりました。

こういう機会を与えて下さった方々に感謝します。ありがとうございました。



〔旅に参加する前の広島イメージ〕

- 原爆ドーム
- 戦争
- 暗い
- 安芸の宮島
- お好み焼き

〔旅に参加した後の広島イメージ〕

- 意外にビルが多くて都会
- 一人ひとりが、原爆の苦しみを、何とか後世に伝えていかねばと必死に思っている
- チンチン電車が多い

## 『ヒロシマに行って学んだこと』

大澤栄子

私が原爆を知ったのは、小学校4年生の時、『はだしのゲン』という本を読んだのが始まりでした。書いてある事すべてにしょうげきを受け、とても悲しくなりました。

なぜ、この戦争で罪のない人を殺してしまうのか、疑問に思いました。

平和の旅に行ってとても印しよう深かったのが、ひばくされた方との講話会でした。その時の様子を聞くと、何かが落ちてきたと思ったらピカッと光って原爆は多くの人を死なせました。皮ふは熱線で焼けただけ、水がほしいと叫んで苦しみながら死んでいきました。身体にはウジがわいて、それを必死にとったり、死んでいる人はトラックで運ばれ、死んでいない人も、もうすぐ死ぬからトラックに乗せられるという事を聞いてびっくりしました。

改めて原爆はいけない、絶対にダメだと思いました。その絶対いけない原爆を日本に、2発も落としたのはすごく悲しいです。

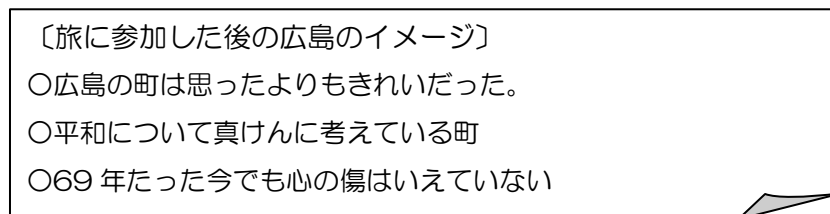
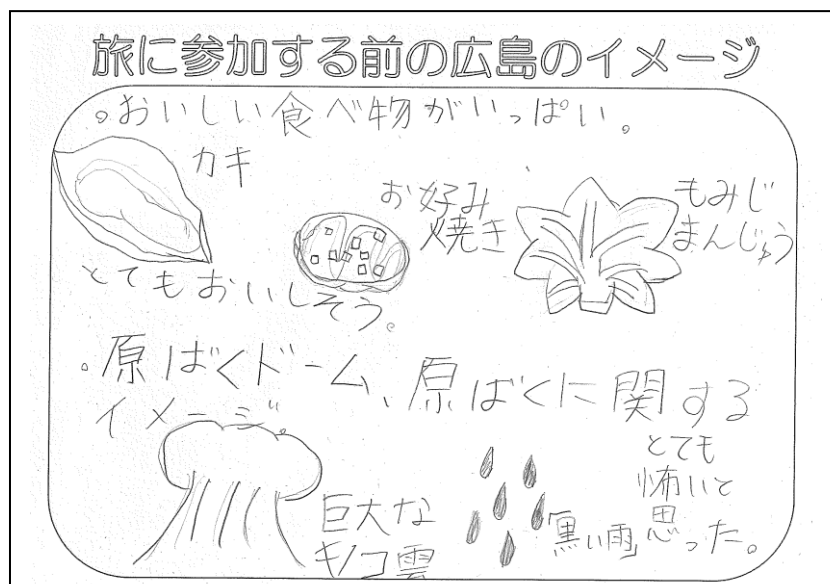
なぜ、戦争をするのでしょうか。殺し合いをしても、良い事は一つありません。

核弾頭の数、1番多い国だけで8,500もある事を、平和記念資料館に行って知りました。それだけの数が、世界中にうちこまれた

ら、本当の世の中の終わりになります。

たった2発でヒロシマとナガサキの悲げきがおきました。

みなさんも核はいぜつを、今こそ伝えていきませんか？



## 『原爆から学んだこと』

西岡 菜央

私は、小さい頃広島へ行ったことがあるが、色々な事を学んだ今では感じる事も違っただろうと思い、広島平和の旅に参加しました。

原爆を体験した方の話を聞きその風景を想像したり、資料館の展示物や掲示物を見ただけで辛く苦しくなりました。その時見た事、聞いたことは衝撃が強かったので、忘れることは出来ません。ということは、実際に体験した方はもっと辛く、今思い出すのも苦しいのではないかと思ったが、私たちに話す事を嫌がる所か、笑顔で話をしていたのがとても不思議でした。どうしてそこまで強くいられるのかと。そう思うと、部活や勉強が大変なくらいで弱気になっている自分が恥ずかしく感じました。

綺麗事ではなく心から、戦争の無い平和な今の日本に生まれてきたからには、戦争のせいでやりたい事も出来ぬまま亡くなってしまった方の分も、周りの人を大事にし、精いっぱい生き続けなければいけないと思いました。

8月6日は、私と考えが違ったとしても、それぞれが考えている戦争や平和について、思い出さなければいけない日だと思います。

今回の旅で、人が人を傷付ける事は簡単なのに、人がその傷を癒



す事は難しいという事を学び、他にもたくさんの事を考えさせてくれたので、本当に行って良かったと思いました。

〔旅に参加する前の広島イメージ〕

- 原爆ドーム
- お好み焼き、みかんアイス
- 自然がたくさんある
- 鹿

〔旅に参加した後の広島イメージ〕

- 想像していた以上に、まだ被爆したあとが残っていた
- 路面電車がたくさんあった
- “悲しい”ばかりではなく“楽しい”もあった



## 非核・平和都市宣言

私たちは生きている。  
おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち  
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している  
この地球で

私たちは持っている。  
この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を  
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。  
おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを  
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。  
必要なのは笑顔での話し合いであることを  
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。  
あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを  
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを  
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを  
世界に広く訴えるために  
非核・平和都市 西東京市の  
宣言とする。

平成14年1月21日  
西 東 京 市